

宮古市立高浜小学校

2014年 9月 9日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)
北林 雅洋(香川大学教育学部)

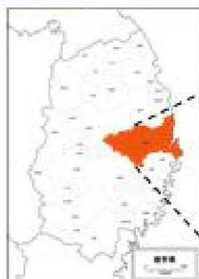
【文献】

- (1) 『東日本大震災に伴う対応状況(経過)』岩手県宮古市
http://www.city.miyako.iwate.jp/data/open/cnt/3/2940/1/17-33p_2syo_taiouiyoukyou_keika.pdf
- (2) 『焦点/学校・避難の教訓(3)情報/速やかな収集、命左右』2011年12月17日河北新報
http://www.kahoku.co.jp/spe/spe_sys1071/20111217_01.htm (現在リンク切れ)

【場所】

宮古湾から約40mの位置にある。
住所:岩手県宮古市高浜4丁目7番22号

【東日本大震災による被害】
津波により校庭が浸水(1)(2)



赤い範囲:宮古市



緑の範囲:高浜小学校



【震災当日の様子】

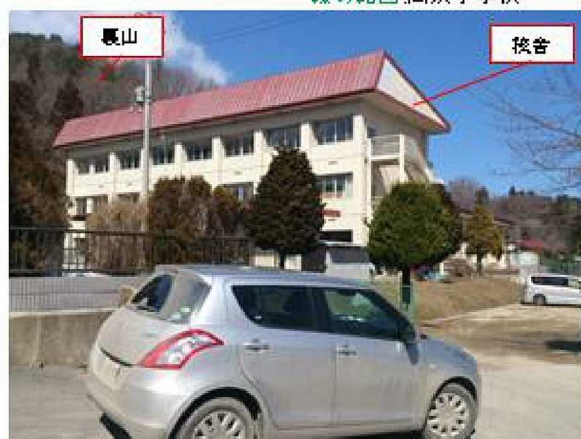
地震の後、校庭には児童86人のほか、引き渡しを求める保護者、地域住民が集まった。学校の防災マニュアルは、津波注意報・警報の解除まで待機と定めていた。教職員がメガホンで「警報が出ているので、もう少し様子を見ましょう」と呼び掛けた。教職員は携帯電話のワンセグで情報収集をしており、画面に釜石湾を襲う大津波が映り、緊張が走った。保護者の一人は校庭から海を見張っていた。巨大な波が近づくのを見て、大声で「駄目だ！ みんな逃げろ！」と叫んだ。校庭の児童、保護者、住民らは校門を飛び出し、裏山をよじ登った。間もなく津波は防潮堤を越え、校庭の車やサッカーゴールを押し流した。

校舎は浸水想定区域外にあり、防災訓練に高台避難は含まれていなかった。校長は「保護者の目視などの情報が、とっさの避難行動につながった」と振り返る。地震直後の停電で、多くの学校は情報の途絶に直面した。テレビは消え、電話も一部でつながらなくなった。(2)

【調査して言えること】

学校の敷地は高台の上であり、校庭の標高は15mほどで、校舎は校庭からさらに土地をかさ上げした場所に建てられている。校舎のすぐ裏は山になっており、高台避難のしやすい場所であった。また、海からかなり近く、学校から海を見ることができる。

学校横の道路が坂道になっていて裏山へと続いており、校門を出て50mほど登ると標高35mくらいの高さまで避難することができる。



校舎と裏山(2014/3/19撮影)



高台にある学校の敷地(2014/3/19撮影)



学校の敷地と海(2013/9/3撮影)



学校横の坂道(2014/3/19撮影)